

労務職・技能職の スマホ利用動向

労務職とは建設業や製造業の現場で働く人々。技能職とは長距離トラックやタクシーの職業ドライバー、そして技術を活かして働く職人など。電通総研では、これらの職業の人たちについて研究を進めている。そこで、今回のインサイト・メモでは特に彼らとスマートフォン（以下、スマホ）との関わりについて、その利用実態を中心に紹介したい。

文●長尾嘉英 *Nagao Yoshihide*

電通総研
メディアイノベーション研究部 研究主幹

人口ボリュームと スマホ利用率

まず、働く人の中で労務・技能職に携わっている人は何割くらいいるだろうか。国勢調査・労働力調査などのデータから電通総研で推計したところでは、例えば20代半ばから40代半ばの有職男性の約35%という結果で、この年代における働

く男性の3人に1人が労務・技能系の職業に就いている。

さて、2012年はスマホが人々の生活へ飛躍的に浸透した年となった。その潮流に沿って労務職・技能職層でもスマホ利用は拡大している。ビデオリサーチ社が昨年実施したACR調査（東京エリア）によると、「給料労務・作業職」に該当した調査対象者297人のうち89名（30.0%）

がスマホを所有していた。つまり、昨年の段階で所有率は既に3割に達しているわけで、直近ではその割合はさらに増加していることだろう〔グラフ1〕。

意外に多い仕事上の スマホ利用シーン

電通総研では、労務職・技能職の中

でもITリテラシー的に先進層と言える「スマホ所有者」を招集し、グループ・インタビュー調査を行った。

まず、「スマホでどんなことをしているか?」という質問をしたところ、ちょっと意外であったのだが、彼らが仕事において非常に多くスマホを活用している実態が分かった。

例えば、1日の間に複数の現場を渡り歩くような人の場合、次の現場へ移動する際にスマホの「マップ機能」を有効活用していた。仕事では、決められた時刻に1人でも遅刻していると成り立たないような作業も多いため、移動時間の読み違いなどはご法度となる。したがって、スマホの「ナビ機能」や「乗り換え案内」などが非常に重宝されているのである。

ちなみに、朝一番に自宅から現場へ向かう際には、クルマではなく、電車で通勤する人が予想以上に多かった。朝は一般に道路が混むため、集合時間に絶対に遅れぬよう運行が比較的安定している電車を選ぶということなのだろう。となると、乗り換え関連のアプリが多く使われていても不思議はない。

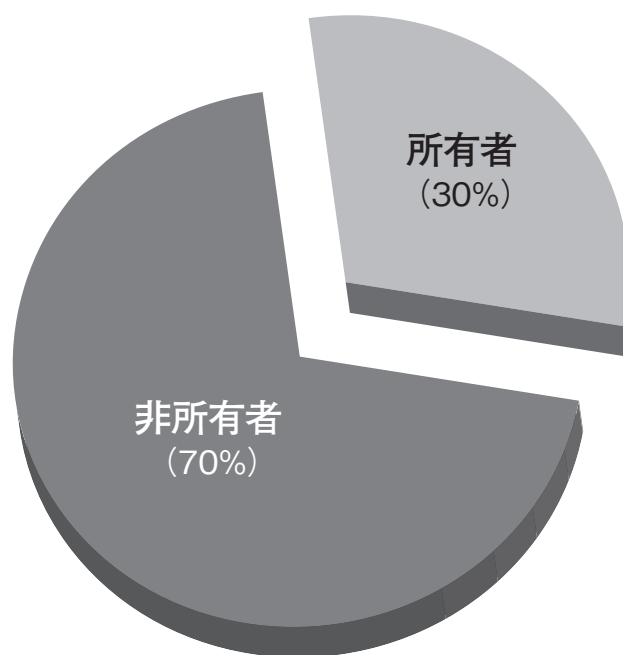
また、こんな報告もあった。ある職人の方の発言だが、「作業台の傾きの角度をスマホのアプリで確認をしている職場仲間がいる」というコメントがあった。オフィス街で働く事務系サラリーマンに限らず、労務職の人々においても、スマホは仕事のための重要ツールとなっていることがよく分かった。

ただ、彼らは出勤時から帰宅時まで1日中スマホに接触しているわけではなさそうだ。例えば、とび職のある方からは、「スマホは、現場に着いたらすぐに鞆に入れてしまい仕事はいじらない。ポケットに入れて持ち歩いたりして、もし高い所から下に落としてもしたら大変だから」という発言も聞かれた。

グラフ
1

「労務・作業職」のスマホ所有率

(ビデオリサーチ ACR2012 調査を基に電通総研が作成)



楽しみとしての スマホ利用トレンド

一方、彼らはスマホを(仕事の道具としてだけでなく)娯楽のツールとしても楽しんでいる。インタビューでは、例えば、動画サイトにアップされているいろいろな“面白動画”を見ているという声が聞かれた。見ているコンテンツの具体的な例としては、「しゃべるオウム」の動画とか、「食パンを放置したらどうなるかの実験映像」など、他愛もない暇ネタのようなものが多く挙げられた。労働の合間に、気分転換的に見ているとのことである。

また、スマホでソーシャルメディアを楽しむ人も多い。例えば、自分の子と“今晚

の夕飯何かな?”といったことをチャットアプリでやり取りしている人がいた。

ところで、ソーシャルメディアで彼らがやり取りする相手について質問した時に印象的だったのは、「地元の仲間」や「中高生時代の友人」といった回答が多く出たことである。労務職・技能職の人々にとってスマホは、ソーシャルメディアで地元との繋がりを維持するツールともなっているのだ。

最近では、工事現場で「タブレット」が使われるシーンも増えてきているというニュース記事があった。労務職・技能職の世界でのIT化動向は今後も見逃せない。

